

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

会報

発行・編集 1999年11月

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 財団法人日本太鼓連盟

副会長 塩見 和子 Tel.03-3580-9536 Fax.03-3580-8322

◆ 会員の皆様へ ◆ ～財団設立2周年を迎えて～

財団法人日本太鼓連盟は、皆様ご承知のとおり平成9年11月11日文部大臣の許可を得て設立いたしました。昭和54年に任意団体として発足した全日本太鼓連盟が18年の活動を経て、太鼓関係者の総意により念願の法人化を果たしたものです。早いもので、間もなく設立2年目を迎えます。この2年の間に太鼓関係者のご協力や関係団体のご支援により、日本太鼓界の基盤体制に大変重要な支部制度、会員制度、資格認定制度等が確立され、各種事業に着実に反映されてきております。また、日本太鼓全国フェスティバルをはじめとする太鼓演奏の全国大会や国際親善、文化交流を目的とした海外公演も軌道に乗り、順調に成果を挙げてきております。当財団といたしましては、設立2年目を契機にこれからも世界に視野を向け、更に太鼓愛好者の増大を図っていく考えです。このため、特に次の5項目に重点を置いて事業を開拓していく所存ですので、会員の皆様には何とぞご理解、ご認識いただき、一層のご協力をいただきますようお願い申しあげます。

1. 2002年から中学校で和楽器

(太鼓・琴・三味線・尺八等) の音楽時間設定

このたびの「学習指導要領」の改正により、2002年から全国の中学校において、音楽の時間に和楽器(太鼓、琴、三味線、尺八等)の時間が設けられる。このため、当財団に対し、教科書出版社から2000年を目処に新たに作成する教科書の校閲担当者の紹介依頼がきいているため、技術委員会等が対応することとしている。このような実状から、特に音楽を担当する先生方に対して日本太鼓の周知、啓蒙活動を図っていくことを主眼として、次のことを全国、都道府県、市区町村単位で推進していく必要がある。

- (1) 機会を捉えて先生方の音楽部会等で、太鼓の演奏、指導、講習を実施する。
- (2) 先生方に対して、太鼓演奏会や講習会への特別招待を呼びかける。

(3) 当財団では全国の市区町村に対し、地域と太鼓の関わりを調査し、報告書として取りまとめた「日本太鼓実態調査報告書」を全国の教育委員会に送付し、公認指導員の存在と太鼓の指導要請があった場合の協力を約束している。今後も引き続き市区町村の教育委員会と緊密な連係を図っていくこととしている。

2. 全国47都道府県に支部を開設

このたびの理事会において、栃木県支部の開設が承認され30支部となった。残りの17都府県については、前号の会報(第7号)で記載のとおり年次目標(1999年2支部・2000年4支部・2001年5支部・2002年6支部)を設定し、2002年を目処に47支部化を目指している。このような全国組織化は法人としての社会的な評価や信頼度を高めると共に太鼓愛好者の増大に結びつけていく等、日本太鼓の普及、発展を図る上で大変重要である。

3. 海外支部の開設

海外における太鼓チームは、年々増加する傾向にある。しかしながら、日本太鼓に関する正確な知識や情報に乏しいため、これに呼応すべく当財団に対し、日本と同様に会員で組織する支部を開設するよう要望がある。特に、アメリカからは具体的に支部設立を要請されている。今後は世界に視野を向け、各国の実状を把握しながら、早急に海外支部の開設を検討していくこととする。

4. 太鼓団体の加盟促進

財団設立に伴い新たに加盟団体に対し「入会申込書」の提出を求めていたが、このたび、1年以上の時間を費やしようやくまとまった。その結果、新入会の46団体を加え、724団体が正式に登録し加盟団体として承認された。なお、会員総数は19,526名となり、関係当局から指摘されている「会員名簿」の作成が可能となり、財団法人としての会員掌握の基礎が整った。

5. 太鼓演奏会に対する考え方

当財団が主催する全国大会(全国フェスティバル、ジュニアコンクール、全国障害者大会)と各地域が主催する各種大会との特色の違いを明確にし、太鼓団体の出場意欲を助長すべきであるとの声が関係者から挙がっている。

このため、広く会員の意見を聞き実施内容について委員会等で検討することとしている。

- ①日本財団に対する平成12年度助成金については、運営費として1億3,640万円を申請することとする。
- ②同じく補助金については、総額6,900万円を申請することとする。(内、日本太鼓育成事業として助成金交付事業450万円・日本太鼓文化の振興事業として全国フェスティバル等6,450万円)
引き続き採決を行ったところ、全員異議がなく、第2号議案は原案どおり可決承認された。

＜第4回評議員・第5回理事会開催＞

第4回評議員会並びに第5回理事会が去る9月22日(水) 東京・原宿において開催されました。

評議員会は、吉野会長の挨拶に続き、堀田評議員が議長となり理事会で諮る前に検討すべき議案（平成12年度事業計画及び収支予算）について審議が行われ、原案通り承認可決されました。

ひき続き、理事会を開会し、吉野会長が議長となり、次の4議案について審議が行われ、それぞれ原案通り承認可決されました。

第1号議案

「平成12年度事業計画及び収支予算について」

①日本太鼓助成事業について

助成金額をこれまでの1事業20万円に対し30万円に、助成件数を12事業に対し15事業と拡大したい。

②日本太鼓全国フェスティバルについて

ユネスコの公式な諮問機関である国際NGO組織、C.I.O.F.F.（国際民族芸能組織委員会）が東京を中心を開催する「C.I.O.F.F.ワールドフォーカロリーアーダ」に併せて実施したい。

③国際交流事業について

海外の支部開設を視野に入れ、先ずアメリカを中心に計画し、サンフランシスコで講習会、ワシントンでは障害者チームによる公演を予定したい。

④その他の事業については、これまでと同様に実施したい。

⑤平成12年度において会員制度、資格認定制度、海外の支部開設等の業務への対応と、愛好者の拡大を目指すために必要な事業を積極的に実施していくために、事務所の独立と職員の充足を図る。

引き続き収支予算書案について説明し、次いで、質疑に入ったが特になかったので、採決を行ったところ、全員異議がなく、第1号議案は原案どおり可決承認された。

第2号議案

「財団法人日本船舶振興会（日本財団）に対する平成12年度助成金及び補助金の交付申請の承認について」

第3号議案

「評議員（第2期）の選任について」

現在の第1期評議員の任期は、平成11年11月27日までとなっており、次期評議員を選任する必要がある。評議員の選任については、寄付行為第23条の定めるところにより、理事会で選出し、会長が任命することとなっており、本理事会に諮り、その議決を求めるものである。なお、任期については寄付行為第20条及び第23条第5項に基づき平成11年11月28日より2年間とする。

近畿ブロックの評議員については、新たに京都府太鼓連盟会長の富治林浩氏が就任し、その他の評議員については、留任することの説明を行い審議した結果、全員異議がなく、第3号議案は可決承認された。

第2期評議員（任期：～平成13年11月27日）

伊藤 雅俊氏	(株)イトーヨーカ堂名誉会長
大町陽一郎氏	指揮者
岡田 知之氏	国立音楽大学教授
ジョージ・川口氏	ドラム奏者
北村 汎氏	秀明大学学長
小泉 武夫氏	東京農業大学教授
高橋 秀雄氏	日本伝統芸能研究所所長
松本源之助氏	江戸の里神楽土師流家元
三木 稔氏	作曲家
河野 和義氏	(岩手県) 北海道・東北地区
宮崎 義政氏	(千葉県) 関東地区
堀田 豊和氏	(富山県) 長野・北陸地区
深沢登志夫氏	(山梨県) 中部地区
富治林 浩氏	(京都府) 近畿地区＊新任
脇元 勝巳氏	(鹿児島県) 九州地区

第4号議案

「支部の開設について」

申請のあった栃木県の支部開設（加盟団体5チーム）について審議した結果、全員異議がなく栃木県の支部開設は原案どおり可決承認された。

<第7回運営委員会を開催>

第7回運営委員会は、9月14日（火）財団事務局のある日本財団ビルにおいて開催しました。塩見運営委員長が議長となり次の事項の審議並びに報告がありました。

（審議事項）

「平成11年度日本太鼓助成金交付（審査）について」

申請のあった10事業を審査した。このうち、支部を通した申請は、すでに支部で精査しているため特に問題なく了承された。また、新潟県所在の特別会員からの申請は、内容が助成するに相応しいと判断し承認された。

＜平成11年度日本太鼓助成金交付決定事業＞

1. 6月26日：あじさいホール（京都府相良郡）
第1回京都府太鼓フェスティバル（京都府支部）
2. 8月21・22日：大日ロッジ（石川県鳥越高原）
石川の太鼓サマースクール99（石川県支部）
3. 9月25・26日：小牛田町文化会館（宮城県）
駒の会20周年記念事業（創作和太鼓駒の会）
4. 10月17日：礪波市文化会館（富山県）
富山の太鼓・富山県ジュニアコンクール（富山県支部）
5. 10月24日：シーハットおおむら（長崎県大村市）
第2回ジュニアコンクール長崎県予選大会（長崎県支部）
6. 10月24日：中世の館（青森県南津軽郡）
第5回中世の里太鼓フェスティバル（同実行委員会）
7. 11月7日：信濃川特設会場（新潟県西蒲原郡）
分水太鼓10周年記念イベント（分水太鼓）
8. 12月11・12日：泉郷プラザホテル（長野県南安曇郡）
平成11年度長野県講習会（長野県支部）
9. 2月6日：藤枝市民会館（静岡県藤枝市）
平成11年度静岡県太鼓まつり（静岡県支部）
10. 2月13日：花園コミュニティセンター（埼玉県花園町）
第9回撥の祭典（埼玉県支部）

「栃木県の支部開設について」

栃木県の開設について状況の説明を行い、審議の結果了承された。なお、栃木県の未加盟団体に対して正式に参加要請を事務局で行うこととした。また、全国における既存の県連（太鼓連盟、太鼓連合等）と支部のあり方を検討していくこととした。

「海外太鼓団体との組織づくり（支部・会員）について」

海外団体の対応は、今後の財団にとって重要な事項であるため慎重かつ積極的に進めることとした。具体的な方法として、次の提案があった。

- ①準備委員会を設置し、開設の基準や特別会員などを検討する。
- ②日本太鼓チームを海外に派遣し、講習会並びに講演会等を開催し、支部の開設を推進していく。

③財団に国際部を設置し、海外団体の普及促進にあたる。
「平成11年度事業の実施について」

前回の運営委員会以降の完了事業として第1回日本太鼓全国障害者大会（7月・静岡）の報告を行った。また、今後の予定事業の実施状況を説明した。

- ①国際交流基金依頼による、国際交流事業として10/11-30ブルガリア・トルコ・イラン公演に橋太鼓「響座」（宮崎県）を派遣する旨を報告した。
- ②日本太鼓全国フェスティバル（11月・山梨）の現地打合せ会並びに出演申込の状況を説明した。
- ③第6回日本太鼓全国講習会（11月・大分）における講師等の原案と状況を説明した。
- ④日本太鼓ジュニアコンクール（3月・石川）について予選会の実施状況と本選の状況を説明した。

なお、これに対し、財団主催の日本太鼓全国フェスティバルと各地の太鼓フェスティバルとの違い（出場チーム、ステータス等）を明確にしたい旨の発言があり、今後選出基準など実施の内容について検討することとした。

「平成12年度事業計画について」（2頁参照）

（報告事項）

「第4回技術委員会の開催結果について」

- ①公認指導員資格認定免除基準案を検討し、特別会員で公認指導員の免除希望は、1級公認指導員2名以上の推薦を得ることとした。
- ②講習内検定を5回受け、昇級の検討条件を満たした羽土聰氏（岐阜県）を1級公認指導員として認定することが了承された。
- ③平成12年度公認指導員研修会の内容案等を説明し、了承された。また、公認指導員の更新に際し指導員手帳を作成することとなった。
- ④支部講習会について実施内容を説明し、了承された。なお、12月に支部講習会実施する予定の長野県から内容の説明があった。
- ⑤日本太鼓教本の見直しについて、各方面的意見を集約し作成したいとの報告を行い了承された。

「その他について」

- (1)入会申請及び会費納入状況について、再三の通達にもかかわらず未提出の団体があるので、通達どおりこれを退会とみなすこととする。
- (2)評議員の地区推薦結果について、資料を基に説明を行ない了承された。
- (3)2002年の文部省「学習指導要領」の改正に伴い、中学校音楽時間に設けられる和楽器（太鼓等）の教科書出版に関し次の通り報告があった。
 - ①(株)教育芸術社から校閲協力の要請があった。
 - ②今後、音楽の先生方に対する日本太鼓の周知、啓蒙活動について積極的に検討していきたい。

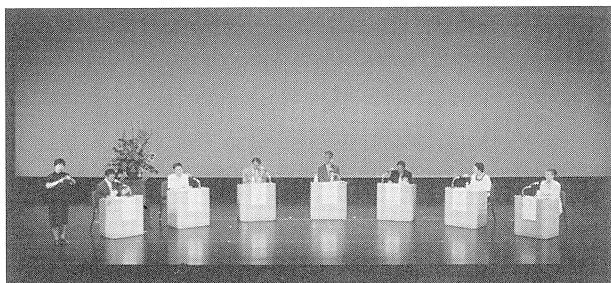
◆ 第1回日本太鼓全国障害者大会を開催 ◆

～心に響け“ドンドン”フェスティバル～

第1回日本太鼓全国障害者大会（主催：財団法人日本太鼓連盟、主管：静岡県太鼓連盟、社会福祉法人富岳会、後援：厚生省、静岡県等）が日本財団の補助事業として去る7月25日（日）静岡市のコンベンション・アーツセンター・グランシップにおいて開催されました。

第1部は「和太鼓活動の可能性を探る」と題してフォーラムを開催、和太鼓の障害者セラピーとしての可能性を医療、教育、福祉、音楽など各分野の専門家の方々をパネラーにお招きし、実際に太鼓を打っている障害者の方を交えて体験を披露しながら会場と一体となって展開致しました。

第2部は、「心に響けドンドンフェスティバル」として、全国から知的障害、聴覚障害者の太鼓チーム13団体が出場して行かれました。また、会場のロビーを使って障害者による芸術作品展も開かれ、多くの方が絵画、陶芸などの作品に強い関心を示していました。



(フォーラム)

フォーラム

パネラー 中西 智子氏（三重大学教授）
澤田 祐介氏（東海大学教授）
山本 肇氏（コンベンションアーツセンター館長）
浅野 昭利氏（浅野太鼓研究所理事長）
山内 令子氏（富岳会理事長）
塙見 和子氏（日本太鼓連盟副会長）
司 会 山内 強嗣氏（静岡県太鼓連盟会長）



(フォーラム)



(富岳太鼓)

日本太鼓全国障害者大会を終えて

静岡県太鼓連盟 会長 山内 強嗣

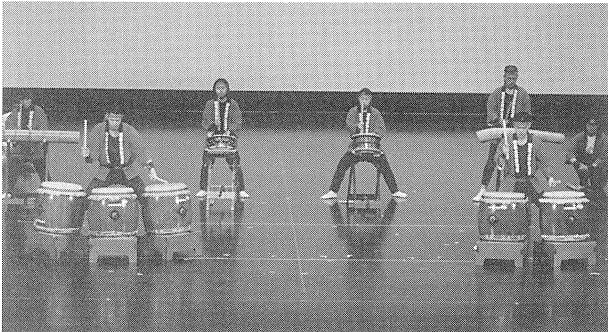
打って楽しい、見て楽しい太鼓は日本では当然、海外でも広く認められた今、そこから一歩進化した太鼓を提供することにあります。それは太鼓を舞台芸術的観点から捉えた研究や、学校教育で取り上げていく場合には指導プログラム化する必要があります。そしてセラピーや、リハビリテーションとして活用する場合には、医学的に通用する学術的裏付けが必要となってきます。日本太鼓も科学する時代がきたのです。（財）日本太鼓連盟が日本太鼓を多角的に捉え、今回このような大会を開催したことは画期的であり、大いに評価するものであると確信しています。

障害を持った方々だけが集まって太鼓の演奏会を開くことは、現代のノーマライゼーションやバリアフリーの発想から見れば方向違います。たとえどんな障害を持っていたとしても、子供たちはジュニアコンクールへ、大人達は支部の太鼓まつりや、全国フェスティバルに参加するのが理想でしょう。しかし、今回の大会の大きな意味は、単なる演奏会の開催だけにとどまらず、1部に「障害者の太鼓活動の可能性を探る」と題して医学者、教育者、福祉関係者、太鼓関係者、財団役員が一同に会しフォーラムを開催し、そして、それを受け2部では、実際に障害を持ちながら太鼓の演奏活動をしているグループが感動の演奏を披露したのです。まさに、理論と実践が一つとなり会場を埋めた1000人を越える観客を納得させ、魅了しました。

たくさんの問題を乗り越えて無事終了した大会でしたが、終わってから改めてこの大会のもつ意味がとても大きいことを感じさせられました。

日本太鼓の持つ2面性、動と静。動的活動とは、太鼓を演奏したり、公演を見せたり聞かせたりすることで太鼓の素晴らしさを一人でも多くの人に伝えることです。静的活動とは、太鼓の持つ特性を生かし、医学的にも教育的にも、文化芸術的にも通用する太鼓学の確かな理論付けの活動のことです。この2つが両立してこそ、日本太鼓が世界に通用する日本の新しい文化として認められるのではないかでしょうか。そして、今の日本にそれが出来るのは、他ならぬ(財)日本太鼓連盟しかないです。(財)日本太鼓連盟の今後の活動に大いに期待して行きたいものです。

最後に、素晴らしい会場をご提供下さった静岡県の行政関係の方々、(財)日本太鼓連盟の役員並びに事務局の皆様、(福)富岳会の職員、静岡県太鼓連盟の会員の皆様、そして多くのボランティアの皆様、本当にご協力ありがとうございました。



(翔龍太鼓「響鳴會」)

第1回日本太鼓全国障害者大会に出場して

翔龍太鼓「響鳴會」 代表 片淵 学

私達、翔龍太鼓「響鳴會」は、知的障害者の社会参加と自立を目的に平成7年8月に発足して4年となります。まだまだ力不足の私達ですが、平成11年7月25日に静岡県で開催されました第1回日本太鼓全国障害者大会へ全九州太鼓連合、長崎県太鼓連合の推薦により九州代表として出場させていただきました。

私達は、九州県外でのイベント参加は初めての事で、ましてや日本太鼓全国障害者大会という大舞台での演奏も初めての体験でした。本番前日の本格的な舞台リハーサル、25日の本番での演奏と今までに経験した事のない緊張の連続、私達にとって何事も初めての経験でどうなる事かと思っておりましたが、日本太鼓連盟、富岳会、各関係者の皆様のお陰で、無事に終わる事が出来、安心いたしました。私達には、知的障害というハンディーがあります。しかし、この大会に参加して障害の違いはありますが、他の出場チームの演奏を聞く事が出来、精力的に太鼓に取り組んでいる姿を見る事が出来ました。

この事は、私達にとって大きな刺激となりました。時として、障害というハンディーのため自分の殻に閉じこもってしまう私達にとって、和太鼓は心の拠所であり、自分らしさを精一杯表現できるものなのです。

この大会への出演は、彼らの大きな自信となり、また、多くの人たちとのふれあいが、彼らの喜びとなり、ひと回りも、ふた回りも成長する事と思います。

帰ってきてからのメンバーの練習にも熱が入り、太鼓の皮、撥の方が心配なくらいです。

フォーラムでの先生方のお話も大変参考になり、これから私達にとって、彼らの可能性をどれだけ引き出せるのかとても楽しみです。大会出場前の彼らは、声の出し方、撥さばき、手の振り、チームワークなど色々な問題を抱えており、悩んでおりましたが、大会出場後の彼らは、その問題を一人、一人が一生懸命直す努力をしており練習、出演にその成果が現れております。この大会に出演させていただいた事で、彼らにとって大きな自信となり、また、何物にも代え難い財産となりました。

今後も、私達の目的である社会参加と自立、また、地域に社会的貢献をする事を和太鼓の響きと共に貫きたいと思います。

最後になりましたが、この大会が2回、3回と開催される事により、障害を持っている方々の大きな支えとなりますよう願っております。そして、この大会をご支援下さった日本財団、日本太鼓連盟、富岳会、各関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



(甲州ろうあ太鼓)

出場団体

知的障害者チーム

(8チーム)

恵那のまつり太鼓保存会（岐阜）、光の村黒潮太鼓（高知）、仁寿太鼓（島根）、翔龍太鼓「響鳴會」（長崎）、勤労障害者文化交流派遣団瑞宝太鼓（長崎）、金谷大井川川越し太鼓チャレンジチーム・富岳太鼓・わらしな太鼓（静岡）

聴覚障害者チーム

(5チーム)

助六ろう者太鼓「鼓心会」（東京）、龍姫太鼓（兵庫）、諏訪聲太鼓（長野）、甲州ろうあ太鼓（山梨）、豊中ろう和太鼓クラブ「鼓響」（大阪）

◆平成11年度主催事業を各地で開催◆

第3回日本太鼓全国フェスティバル 山梨（甲府市）開催迫る！

第3回日本太鼓全国フェスティバルは、主管の山梨県太鼓連盟のご協力により実施に向けて準備を進めております。今回の参加チーム並びに実施概要は、次の通りです。皆さんのご来場をお待ちしております。

名 称：	第3回日本太鼓全国フェスティバル (日本財団補助事業)
日 時：	平成11年11月28日（日）
場 所：	山梨県民文化ホール（山梨県甲府市）
主 催：	財団法人日本太鼓連盟
主 管：	山梨県太鼓連盟
後 援：	文化庁、山梨県、山梨県教育委員会ほか
入 場 料：	一般 前売 2,500円 当日 3,000円 高校生以下 前売 1,500円 当日 2,000円

出演総数：32チーム

県外（19都府県・21チーム）

馬渕川源流太鼓の会（岩手）、蘭導（秋田）、太鼓道場風の会（山形）、米山丸山太鼓（宮城）、標葉せんだん太鼓保存会（福島）、下野不動太鼓保存会（栃木）、下館若囃太鼓会（茨城）、高崎頬政太鼓（群馬）、小前田上町屋台囃子保存会・重忠太鼓保存会（埼玉）、和太鼓琉翔（千葉）、武藏国府太鼓響会（東京）、相模龍王太鼓保存会（神奈川）、分水太鼓（新潟）、のと半島鹿波獅子太鼓（石川）、御諏訪太鼓保存会・みのわ太鼓保存会（長野）、富岳太鼓（静岡）、岐阜県太鼓連盟合同チーム山河「清流会」（岐阜）、大和の響き京（京都）さだ須佐太鼓（島根）

山梨県内（11チーム）

甲府囃子保存会、鰐沢ばやし保存会、大菩薩御光太鼓保存会、東富士七里太鼓保存会、御坂天雷太鼓保存会、竜王町信玄太鼓保存会、古関觀音太鼓同好会、甲州ろうあ太鼓、雨鳴太鼓保存会、紅富士太鼓、日本航空高等学校

第2回日本太鼓ジュニアコンクール 各地で代表チームの選考始まる

第2回日本太鼓ジュニアコンクールは、石川県松任市で開催されます。開催の内容については、確定次第お知らせいたしますが、各地の予選会並びに決定した出場団体は次の通りです。

北海道	北海道くしろ蝦夷太鼓ジュニア
宮城	高倉太鼓・高倉ひこばえ太鼓
秋田	11月決定
福島	11月21日（日）
栃木	市貝武者太鼓
埼玉	高野右吉と秩父社中
千葉	11月21日（日）
神奈川	相模龍王太鼓少年部
富山	越中大島太鼓振興会 若太鼓
石川	12月5日（日）
長野	松川響岳子ども会
京都	大和の響き 京
島根	12月19日（日）掛合町
佐賀	不知火太鼓
長崎	深江太鼓
熊本	城南火の君太鼓
大分	源流少年隊
宮崎	五ヶ瀬中等教育学校 太鼓クラブ
鹿児島	天孫降臨霧島九面太鼓女子部

第6回日本太鼓全国講習会 大分で開催！

第6回日本太鼓全国講習会は、大分県湯布院町で開催されます。内容については、下記の通りです。

開催期日	平成11年 11月13日（土）14日（日）
講習会場	湯布院町立湯布院町スポーツセンター
主 催	財団法人日本太鼓連盟
主 管	全九州太鼓連合、大分県太鼓連合、
後 援	文化庁、大分県、大分県教育委員会、湯布院町、湯布院町教育委員会、大分県観光協会、由布院温泉観光協会、由布院温泉旅館組合、NHK大分ほか

講習内容

○専門講座

大江戸助六太鼓講座（単式複打法）	小林正道（東京都）
大太鼓講座（単式单打法）	渡辺洋一（東京都）
締太鼓講座（单式单打法）	時勝矢一路（兵庫県）
笛講座	狩野泰一（新潟県）

○基本講座

4級基本講座	松枝明美（1級公認指導員）
5級基本講座（初心者講座）	古屋邦夫（1級公認指導員）

*公認指導員昇級試験

本講習会において公認指導員の昇級試験として講習内検定を実施します。

新支部の紹介

京都府支部が（財）日本太鼓連盟の支部として、活動を始めて1年が経過いたしました。そして、この度新たに栃木県支部が開設され、30支部となりました。今回この2支部の代表者の方々に、これまでの活動と今後について寄稿いただきましたので、ご紹介いたします。

京都府支部開設1年目を向かえて 京都府太鼓連盟会長 富治林 浩

（財）日本太鼓連盟京都府支部は、11チームで支部開設の承認を受け、1年3ヵ月経ち、現在16チームと少しづつ歩みを進めてまいりました。

特に、この1年間は何をするにも戸惑いばかりで、関係各位のご協力と京都府支部加入チーム及び役員の熱意で、（財）日本太鼓連盟主催事業への参加、及び京都府下における諸事業の開催と可能な限りの活動を行いました。そして、やっと両眼を開き、今後の活動に向けて京都府太鼓連盟が支部としてなすべき役割が見えてきました。

京都府支部は、発足以来3つのテーマ（心、技、体・態）を掲げて活動を続けてまいりました。

- 一．太鼓を通して、健全な心を育む。 （心）
- 一．技術面においては基礎を良く理解し、日本太鼓の本質を知る。 （技）
- 一．体の機能と太鼓打法との関わりを知り、健康面に活かす。 （体・態）

その結果、この1年の活動を通し、京都府下において最も優先するべき事は、「チームリーダー及び指導者の充実」を図ることと考えました。そのことが、日本太鼓愛好者及びチームの理解を深め、内容の充実につながる事と確信し、指導者研修とさらにジュニアの育成に重点を置いて活動していきたいと思います。

京都は古くから伝わる伝統文化と新たに生まれる改革文化が交錯する代表的な文化都市であります。また、近畿地区の中心地でもあり、京都府支部の内容が充実される事は、近畿地域の各府県における日本太鼓の発展や、（財）日本太鼓連盟の新たな支部開設にもつながり、近畿ブロックの発展への先駆けとしての意義も思念しつつ、活動努力を重ねていく所存です。

（財）日本太鼓連盟、各都道府県、先輩各位のご指導とご支援、改めてお願い申し上げます。

栃木県支部発足にあたって 栃木県太鼓連盟会長 片庭 栄次 事務局長 鈴木 眞雄

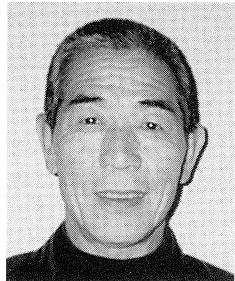
この度、日本太鼓連盟栃木県支部発足に当たり、片庭栄次（男体雷太鼓）、鈴木眞雄（下野不動太鼓）が発起人となり、連盟結成のために行動を開始いたしました。賛同を頂いた5団体より役員を選出し、各々の内容を打ち出し県内太鼓団体のつながりを強め、県内の太鼓界を盛り上げようとネットワーク作りを進めております。県内には、約30団体ほどが活動しておりますが、横のつながりが少なくわずかに那須の地域で自治体の援助を受けている太鼓団体数チームが集まり、年1回の太鼓公演を行っている状況であります。

平成7年に国民文化祭とちぎが開催されるにあたり、平成6年に連盟結成を呼びかけましたが、賛同するチームが少なくそのままになってしまいまして。栃木県は連盟がないため国民文化祭には参加できず、国民文化祭に合わせて10月に那須地方の各自治体が行った「和太鼓まつり」（県内団体8団体、県外団体4団体出演）を独自に開催いたしました。

財団が設立され、益々太鼓文化が我国特有の文化として発展し、健全な国民娯楽（音楽）として地域に根差し、代々受け継がれていきますように、我々も微力ではありますが、皆様の御鞭撻を頂き邁進してまいります。関東地方以北では、最後の支部加入ですが、来年は財団発足の3年目、しかも2000年となります。この意義ある年に栃木県支部設立記念第1回フェスティバルを平成12年5月に開催を予定しています。県内各団体への支部参加を再度確認し、意義ある開催となりますよう、また、財団の活動に少しでも支援が出来れば幸いでございます。第1回日本太鼓全国フェスティバルのテーマにもあります“心に響け日本の太鼓”の如く、栃木県支部発足の旅立ちの記念として多くの太鼓団体との交流を通して、地域への貢献と人間相互の信頼と理解を深め日々精進し、和太鼓の世界を広めていきたいと思っております。

事務局だより

新任評議員の紹介



(富治林 浩氏)

第2期評議員の選任を行った結果、近畿ブロックの評議員については、新たに京都府太鼓連盟会長の富治林 浩氏が新たに就任（平成11年11月28日から2年間）されることとなりましたので、ここにご紹介いたします。

長野県支部講習会

このたび、長野県支部講習会の開催に伴い、4級並びに5級の技術認定員の検定を実施します。多くの方の参加を期待します。

期　　日 平成11年12月11日（土）・12日（日）

会　　場 泉郷プラザホテル（長野県穂高市）

基本講座 銚子はね太鼓（講師・宮崎義政氏）

受講料 大人 10,000円（会員9,000円）

子供 5,000円（会員4,500円）

問合せ・申込先 長野県太鼓連盟事務局

☎0266-23-6146

各地のたより

各地の行事

- 10月10日：江別市民会館（北海道江別市）
山口太鼓流「北海若衆10周年記念講演」（北海若衆太鼓父母の会）
10月17日：砺波市文化会館（富山市）
第25回富山の太鼓・平成11年度富山県ジュニアコンクール（富山県支部）
10月17日：陸前高田市民体育館（岩手県）
平成11年度全国太鼓フェスティバル（同実行委員会）
10月24日：中世の館（青森県浪岡町）
第5回中世の森太鼓フェスティバル（同実行委員会）
11月14日：志賀町総合体育館（石川県志賀町）
志賀の太鼓～これでもか！“太鼓”（志賀の太鼓連絡協議会）
11月20日：府中の森芸術劇場（東京都府中市）
府中の森打楽祭 ’99（財団法人府中文化振興財団）
11月21日：白子町センター（千葉県白子町）
第2回日本太鼓ジュニアコンクール千葉県選抜競技会（千葉県支部）
11月21日：行橋市民体育館（福岡県行橋市）
第7回福岡県民文化祭「福岡和太鼓フェスティバル’99」（福岡県支部）
12月19日：国立競技場（東京都）
東京ふれあいマラソン’99神宮外苑ロードレース（同実行委員会）

*各地の実施事業等を掲載したいと考えておりますので、皆さんからの寄稿をお待ちしております。

高野右吉と秩父社中 ドイツ「日本年」行事に参加

埼玉県とドイツ・ブランデンブルク州の姉妹都市提携記念式典が8月26日ポツダム市内で行われました。「秩父屋台囃子」のエネルギー的なステージに集まった人々が床を踏みならしてアンコールを求め、異例のアンコールステージに応えました。

また、今年から来年にかけての1年9ヵ月間を通じて日独両国の交流を深めるイベント「ドイツにおける日本年」の認定行事としての「文化公演」にも参加しました。市長ほか来場者にステージに上がっていただき、見よう見まねで太鼓を打ったり、踊ったりして交流を深め、帰国いたしました。

（秩父社中高野氏より寄稿）

Partnerschaftsvereinbarung
Präfektur Saitama und Land Brandenburg
埼玉県・ブランデンブルク州姉妹県州提携記念式典

